

# 令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立本郷小学校

## 1. 本年度の結果

### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	59.1	58.3	57.5	57.5	54.2	57.3
算数	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	59.3	58.7	59.2	55.2	55.7	57.6
理科	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	/	/	56.5	52.9	52.4	53.9
全体	目標値 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	結果 偏差値平均	59.2	58.5	57.8	55.2	54.1	57.0

### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
目標値 (対県比)	/	/
結果 (対県比)	65 (98.5)	68 (97.1)

## 2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語科では、読み返してよいところを見つける(57.5%)、目的に応じて工夫して書く(54.0%)、情報を選び構成を考えて書く(59.6%)、情報を選び構成を考えて話す(57.9%)に課題があった。</p> <p>●算数科では、たし算とひき算(82.5%、66.2%)、かけ算(66.4%)、角の大きさ(61.1%)、単位量当たり、速さ(51.8%)、円グラフや帯グラフ(56.9%)に課題があった。</p> <p>●理科では、乾電池と豆電球(54.0%)、音の性質(67.2%)、)天気気温・雨水と地面(52.8%)、植物の成長と季節(75.9%)、物の種類や水の温度と溶ける量(54.0%)に課題があった。</p>	<p>●国語科では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域に大きな課題があった。特に、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること(19.3%)、目的に応じて文章と図表とを結び付けて情報を見付けること(33.3%)、漢字(低いものは49.1%)、資料やメモから根拠を探す(68.4%)に課題があった。</p> <p>●算数科では、「図形」と「測定」の領域に大きな課題があった。特に、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方や答え(45.6%)、速さと道のりを基に、時間を求める式に表す(71.9%)、帯グラフの読み取り(52.6%)、小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して基準量を1としたときに比較量がしめされた小数に当たった理由の記述(59.6%)に課題があった。</p>

## 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p><b>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</b></p> <p>○全教諭が、本校の「授業モデル」を基に日々の授業に取組み、「問いの設定」を意識して実施できるようにする。</p> <p>○研究授業や協議会等を通して、児童が学習への意欲を高めながら取組めるような導入や学習活動を探求していく。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②分析結果や校内での研究授業を基に授業改善を行う。</p> <p>③学期毎に児童・教員へのアンケートを行い、実態把握と振り返りを行う。</p> <p>④全教職員による全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握を行い、各学年で課題のある問題へ計画的な取組を行う。</p> <p>⑤学力調査問題における正答率の低い問題の類似問題をドリルタイム等で実施。</p>	<p>①6～7月</p> <p>②年間通して</p> <p>③学期末(7月・12月・2月)</p> <p>④7～8月</p> <p>⑤年間通して</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国比以上)</p> <p>・各学期の単元末テスト平均値(80点以上の児童の割合80%以上)</p>
<p><b>【学級・学習集団づくり】</b></p> <p>○全学級において、基本的な学習ルールや環境整備などを揃え、徹底できるようにする。</p> <p>○一人一人の役割を明確にし、仲間や集団の中に居場所を意識できる活動の設定。</p> <p>○校内で、支援児童の情報を交流・共有し、居場所づくりと自己肯定感を上げていく。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案や交流。</p> <p>②生徒指導の三機能を生かした授業づくりや、校内での研究授業を通して交流・振り返りを行う。</p> <p>③校内での生徒指導委員会や特別支援委員会など、定期的な話し合いの場で常時児童の実態を把握・交流する。</p> <p>④学期ごとに児童へのアンケートを行い、実態把握と振り返りを行う。</p>	<p>①6～7月</p> <p>②年間通して</p> <p>③常時(それぞれ月1回以上有)</p> <p>④学期末(7月・12月・2月)</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>・Q-U2回目の三次支援の数値0%を目指す</p>